様式1

令和4年度　山梨県立富士河口湖学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

心のゆたかな人間を育てる。（社会で活躍できる、地域に貢献できる人づくり）

山梨県立富士河口湖高等学校校長　小俣　義一

本年度の重点目標	
	1　確かな学力の保証とBYODを含めたICTの効果的な活用
	2　3年間を見通した進路指導の充実
	3　文武一体を自覚した部活動の活性化
	4　コミュニケーション能力の基盤となる言語力の向上

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（2月10日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	確かな学力の保証とBYODを含めたICTの効果的な活用	①「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業研究の推進、相互授業参観の促進 ②新学習指導要領の開始を受け新教育課程の検証と健康科学大学との連携授業の推進 ③学校における働き方改革を推進し、また、ICTを活用した効果的な教育活動の実践	管理職との面談（教科指導）相互授業参観でのコメント交換 教育課程委員会の審議結果と学校評価アンケート（教員） 教科や学年・分掌、部活動指導による点検、分析 授業アンケートの実施	・各教員が、授業を工夫し、座学だけではなく、生徒が興味関心の持てる授業を展開している。 ・本年度より、新学習指導要領の実施に合わせて、また、生徒の進路の希望と卒業生の進路実績を踏まえながらより32単位での教育課程を展開しているが、その成果を実感できるまで達していない。 ・今年度よりBYODが導入されたため、各教員がどのように活用していくべきか模索していた。	B	・本校の生徒の特性を踏まえてさらに工夫した授業を展開し、学力の向上とその定着に努めていきたい。 ・週32単位での授業展開について検証し、本校にとって最も適切な教育課程を模索していく。 ・BYODをどのように活用できるか、各教科の授業実践例などを伝える研修会を実施するなどして、先生方で活用方法を共有していく。
2	3年間を見通した進路指導の充実	①個に応じた進路希望実現を目指した教育課程の編成と工夫 ②各種課外の実施、進路関連行事の企画・運営とクラッシーの活用に向けた研究の推進 ③進路相談やカウンセリング、三者懇談の充実、個々に応じたキャリア教育の実践	学校評価アンケート（教員、生徒） 学校評価アンケート（教員、生徒） 学校評価アンケート（保護者、教員、生徒）	・本年度より、部活動の活性化等を目指して、土曜講座を休止とした結果、自己評価アンケートにおいて、進路関連行事に関する項目の満足度が上昇した。 ・三者懇談、二者懇談等が計画的に行われ、進路や学習状況等についての適切なアドバイスを受けることができるという項目では生徒から高い評価を得ている。	A	・進路関連行事について、その効果を実感しているものの、約3割の教員が「模試や課外等で学習機会を確保できていない」、「進路意識を高めることに役立っていない」と考えているので、内容や回数など更なる改善をしていく。 ・クラッシーの活用率が年々高くなってきたが、「個別最適な学び」に向けて、クラッシーの学習機能の効果的な使い方について、更なる検討をしていく。
3	文武一体による全人教育を目標とする部活動の活性化	①文武一体を具現化するための生徒、教員の意識改革と努力 ②学習と部活動の両立に配慮した年間行事予定の編成 ③改廃も含めた適正な開設部数の検討、顧問配置への配慮と部活動の更なる活性化	学校評価アンケート（教員、生徒） 学校評価アンケート（教員、生徒） 学校評価アンケート（教員、生徒）、生徒総会	・生徒の部活動への満足度は9割以上に上り、また、学習と部活動のバランスについて、8割以上の生徒が両立体制の整いを評価している。 ・学園祭では、早めの計画や立案、協力してもらう生徒・先生方への周知等、事前の準備から他者と協働を体験することができた。	A	・学習と部活動のバランスについて、教員の評価は7割にとどまっており、学習の比重を大きくしたいという思いがある。適切なバランスに関して、合意形成を図る必要がある。 ・他者と協働する活動を通して、一つの事業を完成させる過程や準備の必要性、そこに必要な協力体制などを体験する機会を増やしていく。 ・生徒数、教員数の減少に伴い、適正な開設部数の検討を続けていく。
4	コミュニケーション能力の基盤となる言語力の向上	①朝読書の充実や読書会(図書委員会主催)の実施による豊かな心と論理的思考力の育成 ②保護者、同窓会との連携を深めることによるKIPとしての活動の一層の充実 ③地域や関係機関と連携し、体験活動の充実を図ることによる思考力・判断力・表現力の育成	学校評価アンケート（教員、生徒）、事前事後アンケート 各成果研究発表会等 学校評価アンケート（教員、生徒）	・朝読書が本を読むきっかけとなっていると考える生徒が減少した。朝読書の時間になかなか集中できない生徒も少なからずいた。 ・2学年のKIPにおいて、ゼミ制度を導入し、外部機関等との連携のなかで、素晴らしい成果を上げた。 ・コロナ禍の中で、3年前まで行っていたPTA活動が思うように実施できていないことに加え、今年度は、雨天により清掃活動も中止になってしまい、PTA活動への満足度が下がってしまった。	B	・図書館より定期的に配付される「新刊たより」などを活用し、読書へのきっかけづくりをするとともに、朝の時間の有効活用について、幅広く検討していく。 ・本年度のKIP実施成果を検証し、外部機関との連携における持続可能なKIPのあり方について検討を続けていく。 ・保護者、同窓会、地域と引き続き連携し、協力を得やすい環境を整えていく。

学校関係者評価

実施日　（令和5年2月24日）

評価	意見・要望等
3	・BYODの導入に伴うICT教育の加速に対して、多様なアプローチを行う姿勢は評価できる。その結果、副作用として教員間のICTへの理解度や導入具合の差による生徒達の戸惑いがアンケート結果から読み取れる。ICT機器の活用に焦点化するのではなく、ICT教育を活用することによってどのような変化が狙えるかに焦点を当てた取り組みが「主体的、対話的で深い学び」につながっていくのではないか。 ・基礎、基本の習得を第一に置き、生徒たちが自ら学ぶ体制を作り、自分の能力に応じた学びの実現を引き続き構築していっていただきたい。 ・先生方がわかりやすい授業をしているととらえている生徒が多く、先生方は自信をもって、教育実践に取り組んでほしい。
3	・生徒の学校評価アンケートでは、悩みの相談や進路面談に関するものも高評価であり、信頼関係によって機能しているものと考えられる。そのことは必ずや進路指導の充実に反映されるものと考えられる。 ・コロナ禍においても、高い水準で進路選択ができている印象を受ける。見えない部分で手厚く指導している成果だと推察する。 ・模試や課外等に関しては、生徒のニーズと教員の意向等から、優先順位を見極め、試行錯誤する中、一定の方向性への収斂、収束をしていく必要があると考える。
4	・生徒側のアンケートを見ると部活動は活性化していると見てとれるが、「文武一体」について生徒側と教員側で認識に差がうかがえるため、両者がお互いに合意形成が図れることがより円滑な教育につながっていくのではないか。 ・生徒会活動や部活動と勉学との両立をさせてきた諸先輩の事例を紹介する中で、前向きに取り組む姿勢を支援してほしい。 ・部活動は生徒にとって自分の特性を伸ばし、仲間との交流を深めることができ、意義は大きいが、一方で先生方が本務に専念できる体制作りが重要だと考える。
3	・朝読書は、1988年に千葉県で始まった取り組みだが、マンネリ化をさせないために、図書委員会や担任会等で知恵を出し合ってみてはどうか。 ・地域の人材を有効活用することは、その方の存在価値を高め、生徒たちにも還元される良い機会である。引き続き探究の時間の充実を図って行っていただきたい。 ・進路の実績も重要だが、引き続き「豊かな心」の育成や故郷に貢献できる生徒の育成を図っていただきたい。 ・生徒がKIPの活動で地域課題に取り組み、高校生としてできることを発信することで進路につながっていくと考えられる。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。